

発言 NO

17

受付 NO

8

令和3年 2月 15日

10 時 06分 受付

個人一般質問発言通告書

議席番号 10 番

氏名 上野 茂

答弁を求める者 (○をつける) 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員地域地

発言項目及び要旨

1. コロナ禍での中山間地域活性化について

新型コロナウイルス感染症により、都市部では在宅勤務や新たな働き方や生活様式の取り組みが進められるようになった。今後、一極集中のリスク回避に向けた行動が官民挙げ本格化していくと考えられる。浜田市においても、「特定地域づくり事業」等で市内企業等への就職と定住を目指し、成果が出ていると聞く。長期化するコロナ禍は人々の思考、ライフスタイル、企業のあり方から国のあり様まで見つめなおす絶好の機会と考える。以下、地域資源の有効活用、安全・安心に暮らせる地域づくり、移住・定住促進、食・エネルギーの地産地消について伺う。

(1) 廃校など地域資源の有効活用について

その活用方法によっては、地域活性化の源泉となるとの思いで、以下のとおり質問する。

- ① 公立幼稚園の統合後、また、旭の放課後児童クラブのバイパス工事に伴う移転により、今まで広い部屋、校庭でのびのびと生活をしていた子どもたちの今後を心配される保護者も多い、それぞれの特性を活かした場所が必要と思うが考えを尋ねる。

(2) 安全・安心に暮らせる地域づくりについて

中山間地域の住民が、安心・安全で心豊かに暮らし、「これからも住み続けたい」と実感できる地域づくりについて、以下のとおり質問する。

- ① コロナ禍により外出自粛時の高齢者を見守り支える、移動販売車の重要性が今まで以上に増したと思われる。業者との連携など今後の見解について伺う。
- ② 地元タクシー業者の多くが、コロナ禍のなか、利用者減少で、経営の存在が怪しくなっていると聞く、どのように地域住民の移動手段を確保するのか尋ねる。
- ③ 一人親家族・独居老人の皆さんが、コロナ禍で家族の移動制限によって孤立し、認知症機能の低下が心配される状況だが、訪問活動や見守り活動をどう進める考えか尋ねる。

(3) 移住・定住促進について

都市部の若者に地方に転職したい意識が広がっている。このことについて、以下のとおり質問する。

- ① 今後どのような方針と対策で本市への移住・定住を促進していくつもりかを伺う。
- ② 移住促進の基となりうる空き家バンクの有効利用は進展しているのか尋ねる。
- ③ コロナ禍で外国の研修生や県外からの労働者の孤立感に対し浜田市はどう対応し、寄り添っているのか尋ねる。

(4) 食・エネルギーの地産地消について

昨年の新型コロナウイルス感染症の拡大で内食が高まった。宅配便取扱量は、巣ごもり消費の影響で大幅に増加したとある。このことについて、以下のとおり質問する。

- ① 食料限定の地産地消でなく、エネルギーも含め、今こそ地産地消に力を入れるべきではないか、ご所見を伺う。(近頃コンビニでも県外産の野菜等が多く売られている。)
- ② 太陽光発電の買取期間が満了した後の自家消費拡大の支援について伺う。
- ③ 「浜田市地球温暖化対策実行計画」に基づき、市民と連携し温暖化対策を具体的にどう進めていくのか伺う。